

インターバンクの声（2017 年 5 月 12 日）

ニューヨーク市場の朝方に発表された新規失業保険申請件数が予想以上に減少し、4月の米卸売物価指数も2ヵ月ぶりにプラスとなったことから、113円台に下落していたドル円も一旦は114円台に戻した。

ただ、今週のドル円は米長期金利の低下に神経質になっており、米連邦準備制度理事会（FRB）の6月の利上げ観測が強まっているといっても、足元の金利低下に逆らえず再びドル売りに傾いた。

5/1時点のドル円が111円台前半で取引されていたことを考えると、8日ほどで3円余り円安・ドル高が進んだことになり、やや早い円安進行への警戒感が広がったことも持ち高調整を促したようだ。

また、トランプ米大統領がFBIコミー長官を解任したことについて、今後の政権運営に対する不安にとどまらず、政権が危機におちいる可能性が拡大したとの見方が生じていることも影響していたようだ。

それでもニューヨーク市場の昼前頃から米株価がマイナス圏から大幅に持ち直し、今週の前半に円安に傾いた過程で節目となっていた113円40銭を割らなかったこともあってドルの買戻しも見られている。どうも今晚の米消費者物価指数や小売売上高が発表されるまでは動きづらくなっているようだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。